

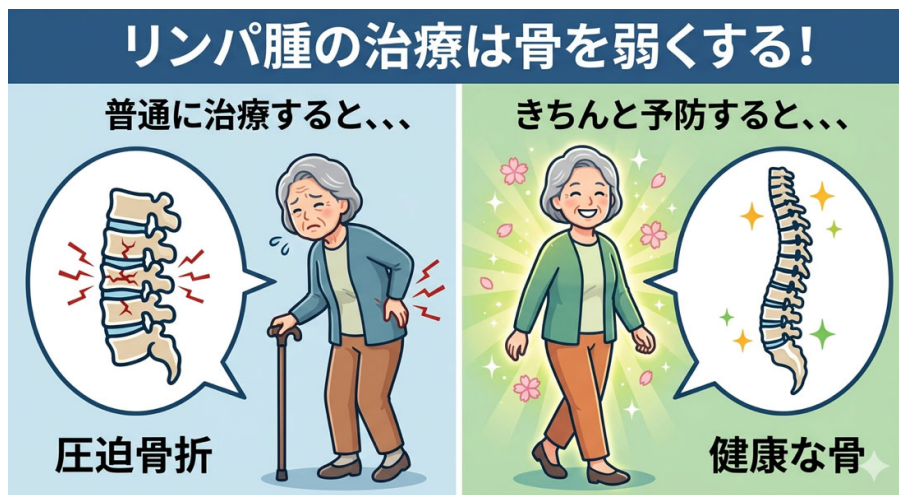
令和 8 年 5 月 15 日

報道機関 各位

**悪性リンパ腫治療における骨折リスクを劇的に低減
—国内多施設共同第 III 相試験（DENOSULY 試験）で証明—
リンパ腫サバイバーが元気に歩き続けられる未来へ**

■ ポイント

- **世界初のエビデンス：**大量のステロイドを使用するリンパ腫治療において、デノスマブが骨粗鬆症薬として最も優れた維持効果を持つことを第 III 相試験で証明。
- **「寝たきり」を防ぐ部位に効果：**高齢者の転倒時に致命的な「大腿骨頸部」の骨密度を強力に保護。
- **リンパ腫治療のパラダイムシフト：**「リンパ腫さえ治ればよい」から「治した後の人生（サバイバーシップ）の質を守る」診療への転換を提唱。「病気は治ったが歩けなくなった」という悲劇をゼロに。血液内科診療への警鐘。



■ 概要

富山大学附属病院血液内科 佐藤勉教授らの研究グループは、多施設共同第 III 相ランダム化比較試験（DENOSULY 試験）を北陸造血管腫瘍研究会において実施し、悪性リンパ腫治療に伴う骨密度減少の予防には、アレンドロン酸と比較してデノスマブが極めて高い

効果を持つことを明らかにしました。

本研究成果は、国際的な権威ある欧州血液学会の公式機関誌「Haematologica」に掲載されました（2026年5月7日、Early view）。

■ 研究の背景

悪性リンパ腫の化学療法（R-CHOP療法など）では大量の副腎皮質ステロイドが使用されます。このお薬の代表的な副作用のひとつが骨密度の低下です。ですから、治療を受ける患者さん（リンパ腫サバイバー）は骨折のリスクに直面することになります。しかし、これまではリンパ腫を治すことが最優先とされ、骨の健康は軽視されがちだったので、リンパ腫は治ったのに圧迫骨折で入院した、といったことも起こりがちでした。そして、どのような骨粗鬆症治療薬がリンパ腫サバイバーの骨健康維持に最も有効かというエビデンスが決定的に不足していました。

■ 研究の内容・成果

本研究では、新たにリンパ腫と診断された患者100名を対象に、デノスマブ（半年1回皮下注射）とアレンドロン酸（週1回経口内服）の効果を比較しました。

- **骨破壊の抑制**：6ヶ月後に行った破骨細胞マーカーの血液検査において、デノスマブ群はアレンドロン酸群を圧倒する抑制効果を示しました。
- **骨密度の有意な差**：12ヶ月後に行った腰椎および大腿骨の骨密度検査において、デノスマブ群はアレンドロン酸群を有意に上回っていました。また、その効果は特に大腿骨頸部で明らかでした。
- **大腿骨頸部（股関節）の保護効果**：転倒時の寝たきりリスクに直結する大腿骨頸部の骨密度において、アレンドロン酸群では顕著な低下が見られたのに対し、デノスマブ群ではその減少をほぼ完全に食い止め、骨密度を維持する圧倒的な優越性（ $p=0.0020$ ）を示しました。

■ 今後の展開

本研究により、リンパ腫サバイバーの骨健康維持に関して標準戦略が新たに提示されました。半年に1回の注射という利便性により、長期にわたる骨の健康管理が容易になり、患者さんの通院負担軽減も期待されます。今後、血液内科医への働きかけはもちろんですが、骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS）を通じて整形外科や多職種と連携し、全国の病院で「リンパ腫サバイバーの骨を守る」仕組み作りを推進します。また、本知見を国内外の

診療ガイドラインへ反映させるべく、学会への働きかけを強化してまいります。

【用語解説】

- 1) R-CHOP : 悪性リンパ腫に対する標準的な多剤併用化学療法。
- 2) リンパ腫サバイバー : リンパ腫の診断を受けたその日から、治療中および治療後を通して、病と共に生きるすべての人のこと。
- 3) デノスマブ : 破骨細胞を形成・活性化させる RANKL を阻害する抗体製剤。

【論文詳細】

論文名 :

Optimizing bone health in lymphoma survivors: denosumab superiority to alendronate for R-CHOP-like therapy (the DENOSULY phase III randomized controlled trial)

著者 :

Shohei Kikuchi, Eiju Negoro, Ryusuke Horaguchi, Takuma Fujihira, Yoshimi Nabe, Tomoki Minemura, Kento Ono, Yusuke Kamihara, Akinori Wada, Nam H Dang, Yasufumi Masaki, Toshihiro Miyamoto, Takahiro Yamauchi, Tsutomu Sato

掲載誌 :

Haematologica

DOI :

<https://doi.org/10.3324/haematol.2026.300564>

【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学附属病院 血液内科

教授 佐藤 勉

TEL : 076-434-7232 (血液内科医局)

Email : tsutomus@med.u-toyama.ac.jp